

課コード	001903	作成日	平成20年4月1日
所属名	森林課	作成者	太田泰司郎

政策名(上位目的)
持続可能な森林管理の推進と森林資源を多面的に活かす林業の展開
目の名称
林業振興推進費

	分野	部	課	施策・事務事業
計画コード				
	款	項	目	事項
科目コード	26	16	11	
(旧科目コード)	26	16	16	
	26	16	01	

事業名			戦略性
木材需要拡大事業(天竜材百年住居の助成事業)			
事業概要			
目的	(対象、意図、求められる結果)	開始年度	終了予定年度
「地域内の木材資源の循環利用」「次世代に引き継ぐ持続可能な森林経営・管理」に向けた「呼び水の事業」として、浜松市民(消費者)を対象に、地域で生産される品質の確かな製材品の利用を促す事業を実施することを目的とする。		年	年
活動内容			
<p>・地域の品質の確かな製材品の需要拡大を図るため、一定の条件を満たす地域材を使用した個人住宅に助成する(本事業)。</p> <p>・並行して、市独自の努力として、市が発注する公共工事(土木・建築)に地域材の利用を促進するため、「公共部門における地域材利用促進に関する基本方針(平成19～22年度、平成19年3月策定)」を定め、その中で庁内組織(13部1局30課)を設け、公共部門における地域材利用の促進を図っている。</p>			
事業の性格分類		実施根拠(法令、条例等)	新市建設計画事業
義務的事業	任意的事業	森林・林業基本法第25条	ワークショップ提案事業
事業運営方法			
直営	一部委託	全部委託	補助等

		H17年度決算	H18年度決算	H19年度最終予算	H20年度当初予算	H21年度計画額	H22年度計画額	前期4年間計
事業費(千円)		0	41,800	41,800	50,000			
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	市債							
	受益者負担分(使用料等)							
	その他							
	一般財源		41,800	41,800	50,000			
	人件費	0	3,200	3,200	3,200			
内訳	人工		0.4	0.4	0.4			
	単価		8,000	8,000	8,000			
計	年間経費	0	45,000	45,000	53,200			
	受益者負担率	#DIV/0!	0	0	0			

性質別内訳		扶助費	公債費	物件費	維持補修	補助費等	積立金	投資及び出資金	貸付金	繰出金	投資的経費	公営企業
平成	人件費											
18	8,000					41,800						
19	8,000					41,800						
20	8,000					50,000						

定量評価						
指標1	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
補助制度利用棟数	目標	棟	100	100	120	
	実績	棟	103	100		
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円	45,000	45,000	53,200		
単位当たり経費	千円/単位	437	450	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率	%		103.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

指標2	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%				
	実績	%				
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円	45,000	45,000	53,200		
単位当たり経費	千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率	%		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

定性評価

過年度の実施内容

一定の条件を満たす地域材を使用した個人住宅に対して40万円を上限として助成した。
 ・H18助成実績103棟(応募件数103棟)
 ・H19助成実績100棟(応募件数118棟)

事前評価	必要性	A 高い B C D 低い	(分析・理由) 環境的な側面からの地域材の循環利用の必要性の普及・PRが今だ不十分であり、普及・啓発が重要。一方、地域材を生産する地域の「林業」は、外材製材品輸入の増大、それらに起因する木材価格の低迷など、構造的な問題を抱えており、この状況は整備が行き届かない森林の放置など、市内の森林整備にも大きな影を落としている。浜松市の財産である森林の適正な管理や地域材利用の必要性が市民に広く浸透するためには、一定の支援は必要である。
	行政関与の妥当性	A 高い B C D 低い	(分析・理由) これまでバラバラに動いてきた業界が一体となって活動を始めているので、行政としてもこうした気運を高める必要がある。

事後評価	有効性	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない	(分析・理由) 「呼び水的な事業」の成果として、 (1)市民からの応募件数が増えている。 (2)新たに地域材を利用する工務店が出てきた。 (3)品質確保のための設備投資(人工乾燥施設導入)する会社が出てきた。 (4)関連業界がまとまり(浜松地域材利用促進協議会)、問題解決に向けた協力体制ができた。 ことがあげられる。
	効率性	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない	(分析・理由) 定額、定量の事業のため、経済的な効率(経費の削減)は困難である。

今後の事業展開		(分析・理由)
規模	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止	事業を継続し、効果を検証して次の施策(「都市部と山間地の連携」「地域材の循環利用を進めるための天竜材の品質確保」「持続可能な森林経営・管理のための林業の自立」など)につなげる必要がある。

具体的な改善内容・事業の方向性等

(問題意識) 平成20年度をもって、平成18年度から実施してきた当事業が3ヶ年経過するが、合併後、地域の財産である森林や木材資源を持続可能な方向にもっていくための普及・PRが始まったばかりであること、「地域材の循環利用」は課の重要課題であること、市長のマニフェスト該当事業であること、事業がようやく市民に浸透してきたところであることなどから、事業の継続が望まれる。

(想定結果) 市の実施が適当なもの

[備考] 事業に対する市民・市民活動団体・事業者・議会からの指摘

・市長マニフェスト事業
 ・H17.9議会 酒井豊実市議「天竜材住宅建築補助制度について」 鈴木政成市議「森林対策としての木材の地産地消について」
 ・H17.11議会 佐藤守之市議「北遠産材の消費拡大策について」
 ・H18.2議会 今田欽也市議「森林政策としての未利用資源の活用と地域材促進事業について」
 ・H18.6議会 鈴木政成市議「天竜産材の公共建築物への使用について」
 ・H19 「浜松地域森林組合協議会」「浜松地域材利用促進協議会」から、市へ事業要望書。

木材需要拡大事業（天竜材百年住居る助成事業）実施の趣旨

浜松市は、平成 17 年 7 月 1 日の合併により、市域の約 68% を森林が占める一大森林都市となりました。この市内森林の大部分を占める天竜川流域の森林地帯は、古くから「天竜美林」と呼ばれ、日本三大人工美林のひとつに数えられるなど、その景観の美しさとともに良質な木材産地として全国的にも有名で、浜松市の財産の 1 つとなっています。

一方、近年の森林・林業を取り巻く状況は厳しいものとなっています。林業においては担い手不足・高齢化、木材産業においては外材製材品輸入の増大、それらに起因する木材価格の低迷など、それぞれの分野で問題を抱えています。さらに、この状況は森林整備にも大きな影響を与え、採算のあわない林業経営から手をひく森林所有者が増加、「間伐」などの整備が行き届かない森林がそのまま放置されていることも少なくありません。

先人が守り育ててきたこの森林は、水源かん養や国土保全、地球温暖化の防止など、私たち人間にとって必要不可欠な多くの機能を有しています。そして、この森林を守り次世代に引き継ぐことは我々浜松市民にとっての使命です。

現在の森林・林業の厳しい状況の中では、私有人工林の多い市内の森林を守っていくことは非常に困難です。しかし、地域内の木材を循環的に利用していくことと並行して、全額公費で森林管理を支えるのではなく、社会的に最もコストのかからない「林業」を中心に森林管理を進めていくことで、「持続可能な森林経営・管理」を実現させることができると私たちは考えています。

そして、これらの成果が、「環境と共生する循環型社会」の形成に資することを期待して、この事業を進めています。